

経済産業省産学連携評価モデル・拠点モデル実証事業 成果報告会発表資料

平成26年3月5日

国立大学法人 電気通信大学
株式会社キャンパスクリエイト



1. 大学の経営活動における本事業の位置付け



知のボーダーレス化

人事制度改革『**教員組織の一元化**』など
有能な研究者登用のためのフェロー制度検討



連携と協働

ネットワーク型産学官連携で、
外部資金比率が7年で3倍
今後、URA組織整備で研究力強化



開放性と透明性

100周年キャンパスの建設始動
今後、国際フォトニクス研究拠点誘致



産学官連携のための環境整備

外部資金獲得(比率)の大幅増!
 H16:6.52% H22:16.5% H23:20.06%

取組み

外部資金の受入れを促進する組織・運営体制等の整備

優秀な教員を獲得するための弾力的な人事制度

- ・H22.4教員組織の一元化(部局別定員制の廃止)
- ・特任教員制度

外部資金獲得支援策

- ・間接経費獲得教員へのインセンティブ付与
- ・学内競争的資金により、外部資金獲得前段階の研究プロジェクトを支援

柔軟な研究組織の編成

- ・研究ステーションの設置:13件(H24.10末現在)
- ・外部資金獲得を目指した、学科・専攻等の枠組みに捕らわれない横断的研究組織を編成
- ・競争的資金等による研究センターの設置:4件(H24.10末現在)
- ・競争的資金等プロジェクトを重点的・戦略的に推進するため、時限を定めたセンターを設置

外部資金プロジェクトを推進するための施設環境の整備

- ・目的積立金を活用したイノベティブ研究棟の建設
- ・オープンラボの整備など

多様な産学連携活動の展開

(ニーズ収集、シーズ発信、コーディネート活動)

- OPAL - RING(研究室紹介冊子)の発行
- 産学連携DAYの開催(毎年)
- 学術相談制度の創設(H23~)
- ギガビット研究会の立ち上げ(H23~)
- 各種ビジネスマッチングイベント開催 など

- 事業協力会からのサポート
- TLO(キャンパスクリエイト)との業務提携
- によるビジネスマッチング・契約交渉

産学連携活動の評価モデル構築と実証



3

2. 評価モデル構築事業の概要と成果

有効な追加指標 【中小企業との共同・受託研究】→複数年の推移で比べる必要
 【シーズ・ニーズのマッチング】→コーディネーターのスキルが生きる
 【研究プロジェクトの企画】→企業との接点をつくるのに有効

効果的な制度設計 共同・受託研究発展ファンド
 反響大・産学連携担当者が教員に個別対応・財源に課題・
 産学間の知的財産運用ルール
 コンソーシアム共通基盤技術は大学、企業自由に実施
 産学人材育成:スーパー連携大学院コンソーシアムの展開

学内外への浸透

研究室ツアーや研究開発セミナーなどの教員と企業関係者を対象とした産学官連携説明会の機会に、大学の産学官連携活動や研究シーズ紹介とともに、構築した産学連携評価モデルに関する説明を行った。本学では、教員全員が出席する全学教授会は定期的に開催されず、大学内の専攻会議が情報交流の主な場である。これまで、産学官連携活動は専攻会議で定期的に報告がされることがなかったことは問題であり、今後は短時間でも機会を作って定期的に報告するように検討する。



4

3. 構築した評価制度や制度改革の課題と今後の展望

企業関係者(50名)が大学の研究シーズを活用する上で重視する点

- シーズの完成度が高い.
- シーズの早期の実用化が見込める.
- シーズの応用先・ユーザーニーズの想定がつきやすい.
- シーズの内容がわかりやすく、理解できる.
- シーズの技術分野と自社の事業分野の関連性が高い.

一方、研究者(38名)が自身の研究を進める上で重視する点については、特に電気通信大学の場合、以下の要望が他大学に比較して高く、産学連携活動の評価に組み込む工夫が必要である.

- 共同研究企業の確保.
- 公的補助金獲得のため、適当な公募情報の提案や、申請書の作成を支援する人材.
- 産学連携に対する人事評価への反映.
- 特許出願など知的財産に関する支援体制、予算.



4. 実証事業の対象となった産学連携による研究活動の成果

IT融合とビッグデータ利活用

研究シーズ	研究成果	産学連携活動の成果	評価指標の有効性
1. 情報処理を大幅に高速化・省力化するデバイス	情報検索デバイスを1社で実証試験。東京リーダーズサミットで成果発表。	大手電機メーカーを含む7社と共同研究に向けた交渉を展開している。	【研究プロジェクトの企画】
2. 地球観測データを活用した自然災害予測システム	電磁気による地震予測可能性を実データにより明確化。	大学発ベンチャー企業を含めた国内外での情報発信。2社と共同研究交渉中。	(教員の情報発信)
3. サービスや教育の質向上のための異質性の分析	音声ペンを使って教育・学習に関する異質性の分析が可能になった。	研究プロジェクト企画を通じて企業との連携が深まり、1社との共同研究交渉中。	【研究プロジェクトの企画】
4. 安全で安心な社会を支える先進情報理工学	企業の課題に対する画像処理、プラズマシステム利活用などの実用化検証。	共同・受託研究2560万円、22社と次年度に向けた連携を交渉中。	【研究プロジェクトの企画】 【シーズ・ニーズのマッチング】 (教員の情報発信)
5. ものづくりの最適解を見つける設計支援システム	メーカーを中心に設計支援システムの勉強会開催、システムの実用性評価。	技術研修によるマッチングで、3社と共同研究交渉中。	【研究プロジェクトの企画】



共同・受託研究 16件 2,743.3万円

